



学園移転に反対して、文学部学生が封鎖してしまった東京・大塚の東京教育大学本部

筑波山ろくへの移転問題で、学生が紛糾している東京教育大学（東京・大塚三輪和雄学長）では、二十九日よるから、文学部の学生約一百人が本館（大学本館）、E館（教育学部、文学部）、G館（一般教養）の入り口に机やイスでバリケードを作り、封鎖。三千日もそのまま占拠を続けた。

文学部の学生たちは、二十九日午後七時三十分から学生大会を開いて封鎖方針を決議にあたった。ついでバリケードを作り、封鎖。三千日もそのまま占拠を続けた。

大学側でも、事前に学生の動きを知って本館の事務用室の一部は近くの付属小学校に移したが、本館には学長室をはじめ、庶務、取扱事務に支障をきたすことがある。

同大学では三十日「七月十七日までにそのまま占拠を続ける」と文告を出し、封鎖を解消する方針を示した。一方、理学、農学、教育の各学部でも文学部の動きに同調する動きをみせており、混乱はさらにつづきそう。

これらの動きにたいし、大学では評議委員会を開くなどして検討しているが、三輪学長が出版中のこともある。これといった対策があちこちで打ち出せない状態である。

筑波山ろくはイヤ 教育大生も本館など封鎖

基地内でウズ巻きデモ



(着上)に大学を移転することに決定してから紛糾が始まり、学生たちは「文部省や大学の一方的な策略だ」と反対、また文学部教授会も「自由な学問の研究ができないくなる」として移転に反対の立場をとっている。

全学連 米軍タンク車阻止で
米軍のジェット燃料と灰塵の輸送に反対する三派全学連、反戦青年委員会、労組員ら約百六十人が三十日午後から夜にかけ、国鉄中央線中野駅、立川駅、青梅線拝島駅などで、タンク車前にすわり込んだりした。

一時は警備隊の裏をかいた学生デモ隊が、米軍立川基地に侵入する騒ぎもあった。

同日午後二時ごろから新宿区戸塚の早大構内で集会をひいた学生たちは地下鉄東西線で中央線中野駅へ、同駅四番ホームで、中央線下り電車を待っているうち、同駅の貨物列車専用線路に十八両編成の浜川崎発立川行き米軍タンク列車が到着した。

学生たちはホームから線路に飛び降り、約五十人が機関車の正面に、五人は機関車をとり巻くようにして、五人がタンク車の上にのじのぼった。

二十分钟后に学生たちはホームに上がり、立川方向の電車に乗った。

首相



斎藤俊夫

二十分钟后に学生たちはホームに

あがり、立川方向の電車に乗った。

二十八日午後四時三十分頃、

東京都文京区春日二の八の二三、